

# JTBF 観光経済レポート

『旅行・観光地動向ファイル』を引き継いで、あらたに創刊した、旅行者や観光地、観光産業の四半期ごとの動向を複数のアンケート調査によって把握し、その結果をとりまとめた季刊の調査レポート。2003年9月の創刊準備号、12月には創刊号(vol.1)を発行した。12月号では、2004年の旅行市場の見通しをあわせて分析している。

●寺崎竜雄 大野正人 林俊介 塩谷英生 中村崇能  
日高大洋 川口明子 岩城智子 安達寛朗

発行・編集：(財)日本交通公社

## 目次 (創刊号 vol.1)

観光経済2003年7-9月期の総括と今後の見通し

2004年の観光経済見通し

調査の方法

1. 国内旅行

(1) 旅行者 (2) 観光地 (3) 宿泊施設

2. 海外旅行

3. 外国人旅行

4. 2004年旅行市場の見通し

(1) 国内旅行 (2) 海外旅行 (3) 外国人旅行

付属統計表

観光経済レポートのために行うアンケート調査

(調査1) JTBF 旅行量調査

- ・ 調査期間：2002年11月、2003年1、3、4、7、9、11月の各月中の10日間
- ・ 調査対象：全国15～79歳の個人。層化多段無作為抽出法
- ・ 調査方法：訪問留置調査
- ・ 調査数：各回ともに2,200人
- ・ 有効回答数：各回ともに約1,250人
- ・ 調査項目：「旅行回数」「旅行内容(旅行形態・出発日・期間・費用など)」

(調査2) JTBF 観光地動向調査

- ・ 調査期間：2003年11月4日～11月14日
- ・ 調査対象：全国の自治体観光主管課、主要観光施設
- ・ 調査方法：郵送にてアンケート票を送付。FAXによる回収
- ・ 調査数：自治体3204件、観光施設421件
- ・ 有効回答数：自治体990件(回収率30.9%)、観光施設169件(回収率40.1%)
- ・ 調査項目(自治体)：「2003年7-9月期の入り込み客数」「地域内主要観光施設の利用者数と売上」「今後の見通しと要因」「管轄地域内の観光施設の内容・規模」
- ・ 調査項目(観光施設)：「施設の利用者数と売上高」「今後の見通しとその要因」

(調査3) JTBF 宿泊客動向調査

- ・ 調査期間：2003年11月4日～11月14日
- ・ 調査対象：全国の旅館、ホテル、国民宿舎等公的宿泊施設、ペンション、民宿
- ・ 調査方法：e-mailまたは郵送にてアンケート票を送付。インターネットによる回答またはFAXによる回収
- ・ 調査数：7,270軒(全施設計)
- ・ 有効回答数：1,031軒(回収率14.2%)。旅館519軒、ホテル376軒、その他(公的宿泊施設、ペンション、民宿)136軒
- ・ 調査項目：「客室稼働率、定員稼働率」「宿泊単価」「2003年7-9月期の動向(自由回答)」「今後の見通しとその理由」

実費頒布：1,050円(税込)

(財)日本交通公社ホームページ(<http://www.jtb.or.jp>)にてPDFデータがダウンロードできます。

## JTBF 観光経済レポート vol.1 (2003.12)

観光経済 2003年7-9月期の総括と今後の見通し

### 国内旅行

- ・ 「JTBF 旅行量調査」によると、2003年7-9月期の国内宿泊旅行者数は、3.1%の増加となった(15・79歳。帰省・業務等を含む)。
- ・ 政府経済見通しが上方修正されるなど(内閣府が9月に実質0.6%を2.1%に改訂)、景気は予想以上に好転しており、これに伴い「出発」も増加している(「JTBF 旅行量調査」)。ビジネス需要を反映して高齢層等の旅客数も4-6月期のマイナスからプラスへと転じている。
- ・ 方面別では、8月の盛夏の影響から甲信越の入込が減少した他、7月26日から発生した宮城沖地震の影響から東北への入込がやや低調であった(「JTBF 観光地動向調査」における観光客数DIより)。北陸の減少は、「利家とまつ」祭りの変動減とみられる。
- ・ 一方で、香瀬、北海道については4-6月期に引き続き好調を維持した(「JTBF 観光地動向調査」)。「JTBF 宿泊客動向調査」も、SARS発生後の海外旅行者数の回復が遅れたことから、旅行会社が沖縄、北海道方面への振替に注力したことも一因である。
- ・ 「JTBF 観光地動向調査」における施設タイプ別の利用者数DIの動向をみると、「物産施設」「お祭り・イベント」が増加している。一方で天候不順の影響を受けた「海水浴場」「レジャーパーク」の減少が目立つ。
- ・ 有給休暇取得率の低下が続く中で、旅行期間化の傾向も引き続きあり、平均泊数は1.92泊と△12.5%の減少となった(「JTBF 旅行量調査」)。
- ・ 消費単価についても、沖縄等への入込増の一方で短期の旅行も増えていることから、△3.1%の減少となっている(「JTBF 旅行量調査」)。「JTBF 観光地動向調査」の結果でも、売上DIは△2.1ポイントと、利用者数DIの△0.6ポイントを下回っている。
- ・ 「JTBF 宿泊客動向調査」における客室稼働率は、「旅館」が0.9%増、前期にSARSの影響が大きかった「ホテル」も0.0%に回復してきている。宿泊単価については、「旅館」「ホテル」とも減少傾向が続いている。
- ・ 「JTBF 観光地動向調査」における今後半年間の観光客数の見通しについては、10-12月期で△13.1ポイント、1-3月期で△17.2ポイントと厳しい見方が上回った。9月末の十勝沖地震の影響から北海道で厳しい回答が多い。「JTBF 宿泊客動向調査」でも、ほぼ同様の傾向にある。

### 海外旅行

- ・ 7-9月期の出国日本人数は363万人、前年同期比で△23.2%となり、4-6月期の△48.2%に比べると回復しているものの、依然厳しい水準にある。回復が早い層は、ビジネスを中心とした30～40代男性、地域では首都圏である。方面ではハワイ、タイバン等の戻りが多い。

### 外国人旅行

- ・ 7-9月期の訪日外国人旅行者数は152万人となり、前年同期比で8.6%増と急速な回復をみせた。SARS感染地域からの海外旅行需要の回復に加え、韓国等からの海外旅行先がSARS感染地域から日本へと振り替えられていることが要因と考えられる。

財団法人日本交通公社 (Japan Travel Bureau Foundation)  
東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.jtb.or.jp>  
tel:03-5208-4704 fax:03-5208-4706